

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2019年
5月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

聖職按手式

司祭 ヨハネ 芳我 秀一



去る3月21日(木)に聖職按手式が行われ、一人の司祭と一人の執事が聖公会に与えられました。聖職位(主教、司祭、執事)は、迫害と異端との闘いの中で、教会がその使命を果たし、組織を守るために使徒たちを通

して神の恵みとして与えられてきました。その教会の使命とは『イエスは)、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。』(マタイ伝9章36節)ということなのです。

戦争責任の取り方

第二次世界大戦時のドイツ、ヒットラーと闘った告白教会の指導者の一人、マルチン・ニーメラー牧師は、ユダヤ人迫害に反対したために逮捕され、8年間

収容所生活を余儀なくされて苦悩の中を耐え抜いた人です。戦後、彼は来日しました。ある大学で講演を行いました。その講演で彼は、苦しかった戦時中の話しはほとんど触れないで次のような話しをされました。「戦後、間もなく収容所から解放された後、ある夢を見ました。その夢とは、目の前に黒い雲が突然現れたかと思うと、もう一方から黄金の雲が現れ、そして、この二つの雲は会合した。その時、黒い雲の中から忘れもしないあのアドルフ・ヒットラーの声が出た。『主よ。お赦し下さい。』すると黄金の雲の中から神の声が聞こえてきた。『おまえはなぜあのようなことをしたのか。』ヒットラーは、『お赦し下さ

い。わたしはあなたの福音を知りませんでした。誰も教えてくれなかったのです』と。夢から覚めた時、ニーメラー牧師は今まで気づかずにいた自らの大きな罪を指摘されたというのです。つまり彼の心の奥深くに迫ってきたのは、ヒットラーの大罪は、わたしたちドイツのキリスト者の罪だったということでした。

教会が熱心に伝道しなかつた罪のために、あのような悲劇が歴史の中に起こってしまったというのです。だから彼は、深く悔い改めて懺悔し、全世界に出て行って福音を宣べ伝えることで戦争責任を果たそうとしたのです。

飼い主のいない羊のような群衆

つまり彼の話は、同じ戦争を経験した日本の教会に對する警告です。日本の教会は、日本が再び道を踏み外して戦争をすることのな

いように日本人の魂に福音をしつかりと伝えていきますか。日本の教会にとって、飼い主のいない羊のような人間とは、多くの同胞日本人です。日本は異教社会です。キリスト者の数は人口の1%にも足りません。しかしキリストは、本物の福音に触れたことがない99%の全ての日本人を深く愛され、憐れんでおられるということなのです。全ての日本人に福音を伝えて、聖霊の力によって人々の魂の中にキリストを誕生させて救いたい。それが今日の日本の教会の果たすべき戦争責任ではないでしょうか。伝道をお怠り、忍耐することを忘れて、自らの救いに自己満足してはいませんか、とニーメラー牧師は現在のわたしたち教会に問いかけています。

徳島インマヌエル教会牧師
徳島聖アモテ教会管理牧師
鳴門聖パウロ教会管理牧師
富岡キリスト教会管理牧師

神戸教区信徒研修会 サーバー、オルター研修会報告

今年の主教座聖堂参事会主催の信徒研修会が、3月2日(土)に神戸聖ミカエル大聖堂で行われました。広く神戸教区内の教会から約60名の方々が参加しました。前半は、ヨハネ加藤博道前東北教区主教に「神さまに仕えるということ」と題して講話をしていただきました。ネヘミヤ記8章10節の「主を喜び祝う事こそ、あなたたちの力の源である」という言葉から、互いに仕えあうことを通して、神に仕えることについてお聞きしました。

午後からは、サーバー研修

指導を林和広司祭に、オルター研修指導を八代英子姉にそれぞれお願いして行いました。サーバー奉仕については、その心がけについて聞き、実際にその意味を理解しながら所作を確認しました。各教会での多少の違いはありますが、基本的なことから、詳しいことまで学ぶことができたのではないかと思います。またオルターギルドでは、聖品の取り扱いや式服などの説明を受け、例を挙げて、どの様に対応するかなどが分かち合われました。

最後に研修で学んだことを踏まえて、教区主教の

司式により聖餐式が行われました。参加者それぞれの教会と大聖堂では、勝手が違うところもありますが、良い経験ができたのではないかと思います。

(司祭 瀬山公二)



ウィリアムス神学館卒業礼拝

3月15日(金)午前11時から

京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)で、ウィリアムス神学館卒業礼拝(聖餐式・修業証書授与式)が行なわれ、神戸教区の宮田裕三聖職候補生が3年間の学びを終え、修業の日を迎えました。当日の参加者は、京都・大阪・神戸・横浜・東京の各教区から大勢が集まり、これまでの宮田候補生の歩みを象徴するものとなりました。小林尚明主教は、礼拝の説教で宮田候補生のもつ特有の課題に触れながら、これからの歩みを神様に祈り、心をもって語っておられました。宮田候補生が礼拝の間、感涙極まっていたことも印象的な光景でした。

2時間余りの後、京都教区センター1階でウィリアムス

宮田候補生ご夫妻の壮行会のような祝意に満ちたものとなりました。

宮田候補生は、4月より徳島聖テモテ教会に定住して芳我司祭の補佐をしながら徳島伝道区全体の牧会・宣教に従事されます。宮田候補生に与えられ賜物を活かしながら、精一杯頑張つて欲しいと思います。また新しい聖職と神学生が生まれることをお祈り下さい。よろしくお願い致します。

(広報部 記)

神学館教員の麓敦子司祭の司会の下、祝会が和やかな雰囲気の中で行なわれました。食卓には、神学館食事スタッフと有志によるご馳走、そして差し入れなども並びました。食前の祈り後、会食の前後に宮田候補生が聖職志願するきっかけをつくられた、中村豊前神戸教区主教ご家族、宮田候補生のご家族を見守りつつ送り出して下さった東京教区の方々、聖職志願を推薦して下さった神戸聖ヨハネ教会の皆様さん、迎え入れ3年間育てて下さった神学館、京都教区、実習先の教会の方々、これからの祈りのうちに迎え入れて下さる神戸教区徳島伝道区の有志の方々など、各関係者からご挨拶があり、これまでの歩みのうちに関係された



オーガスタの まなざし



主教 小林 尚明

『聖職按手式』

3月21日(木)神戸聖ミカエル大聖堂において、デオスシオ遠藤雅巳執事の司祭按手、バルナバ永野拓也聖職候補生の執事按手を無事終えることが出来ました恵みを神様に感謝します。

当日、説教に立たれた芳我秀一司祭は、イエス様の『憐れみ(マタイ9:36)』に言及されました。『その憐れみは、人間的な憐れみではなく、神様の憐れみであって、十字架の死につながる聖職按手を本日受けられるお二人は、同じ憐れみを実践していかねければならぬこと。しかし、それは大変恐ろしいことであるが、お二人は、既に復活されたイエス様を見ておられるから、それが可能になる』と力強く語られました。

私は、主教に按手されて初めての聖職按手でした。私の祈りと手を通して、新しい司祭、執事が誕生して

いきます。今、考えただけでも、その重大さに恐れおののくことしかありません。日本聖公会は、教役者の数が足りない、という悲痛な言葉を他教区から聞きます。勿論、神戸教区に充分な教役者の数が与えられているとは言えませんが、それでも次々に教役者は起こされ、聖職按手式が行われていきます。

『聖職に召される人が増し加わるため』の祈り

10年以上前のことです。当時聖職候補生養成委員をされていた伊神努司祭が『なぜ、これだけ神戸教区に若手の聖職がいると思うか』と私たちに問われて、その答えとして『聖職に召される人が増し加わるため』の祈りを一生懸命献げているからだと、言われたことがあります。本当にそうだと思います。そして起こされてきた志願者を神様が私たちの神戸教区に与えて下さった者として、少々弱さがあったとしても、大切に育てていくという優しさが私たちの教区にはあると信じています。神学生として起こされ、按手され、この祈りの後は『聖職と信徒のため(祈り書111頁)』の祈りがあります。皆さんの祈りによって支えてください。

(神戸教区主教)

フィリピン ワークキャンプ



フィリピンの人たちはみんな優しく笑顔で、嫌な事やしんどい事、心が疲れていてもみんな笑顔で接してくれて、すれ違う度に笑顔で挨拶してくれました。日本での場合、みんながそうというわけではないですが、すれ違う人とは挨拶はなく、みんな下を向いて、携帯やスマホを見ながらそそくさと生き急いでいると感じます。フィリピンの人たちは、日本人に比べて心の豊かさがあると強く思いました。

私は英語が上手に喋れませんでした。言葉が通じなくても私の下手な英語を一生懸命聴いてくれた事がとても嬉しかった事です。会話が理解できなかつたら、わからないまま流すのではなく「なんて言っていたの?」と通訳さんに聞いてくれて会話ができた事がとても嬉しかったです。

私にとって、フィリピンで一番心に残っていることは子どもたちと交わったことです。子どもたちと関わったことで、たくさんのパワーをもらいました。特にフィリピンでは、子どもたちは未来を背

負っている貴重な存在であり希望であると考えています。子どもたちと交わることで、今後のフィリピンの希望をたくさん感じることができました。



たくさんの方の新たな出会いを神様が導いてくれて、何事もなく安全に日本に帰れたことを感謝します。私はフィリピンが恋しいですが、この経験を生かして、すべてに感謝の気持ちで忘れず、笑顔で生活できたらと思います。こんな貴重な経験をできたのは皆様のおかげです。ありがとうございました。

藤岡夏未・
姫路顕栄教会信徒

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

3月10日(日)

マリア 上田 美結華
徳山聖マリア教会

3月31日(日)

サムエル 高倉 一彰
米子聖ニコラス教会

祝 堅 信

3月10日(日)

マリア 上田 美結華
徳山聖マリア教会

初 陪 餐

3月10日(日)

マリア 上田 美結華
徳山聖マリア教会

ご 逝 去

2018年12月18日(火)

バルナバ 柳田 裕
神戸聖ミカエル教会

3月14日(木)

ヨシア 久下 勝章
神戸昇天教会

教 籍 移 動

3月1日(金)

エリザベツ 稲塚 直子
東京教区清瀬聖母教会より
岡山聖オーガスチン教会へ

3月10日(日)

中畑 ゆき
日本福音教団徳島聖教会より
徳島聖テモテ教会へ

4月1日(月)

ヴェロニカ 河村 真由美
マゲダラのマリア
河村 こはる
徳島聖テモテ教会より
神戸聖ミカエル教会へ

青 年 交 流 会

3月15日(金)~16日(土)に

かけて青年交流会が広島復活教会にて行われました。参加者は16名。現在建築中の聖モニカ礼拝堂及び幼稚園の見学、お好み焼きパーティや宮島観光を行いました。この3月に高校を卒業する新青年も加わって交わりが持たれたことを感謝します。夏にも活動を企画しています。これからも青年活動のためにお祈り下さい。

6月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2019年6月7日(木)
午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 瀬山 会治

* 6月の記念逝去教役者

8日	司 祭	チャールズ	ワ レ ン
13日	司 祭	ダニエル	植村 信久
13日	司 祭	ハンリー	ピ ー ト
13日	伝道師	マリア	鈴木 嵯峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊木久次郎
19日	司 祭	ダビデ	横田 豊
20日	司 祭		牧岡 鉄弥
20日	司 祭	トマス	角瀬 史和
20日	主 教	テトス	中道 淑夫
21日	司 祭	ミカエル	都留 孝夫
22日	司 祭	施洗者ヨハネ	佐々木 崇
23日	司 祭	マタイ	覚前 信三
29日	主 教		横田 道信

霊操研修のご案内

目的：聖職の召命を見つめ直し、
主イエスからの慰めと励まし、
癒しを与えられるため

講師：イエズス会 塩谷恵策神父
(元イエズス会修練長)

日程：2019年11月5日(火)~13日(水)

場所：イエズス会聖ヨハネ修道院
(長束黙想の家)
広島市安佐南区長東西2-1-36

主催：神戸教区神学塾運営委員会

費用：教役者 無料
(交通費も教区で負担します)
信徒 46,400円(5,800円×8日)

定員：7名

締切：7月末(但し定員になり次第受付終了)

お申し込み・お問い合わせは
神戸教区事務所まで ☎078-351-5469